

土砂災害の危険を察知するポイント（普段の心得）

過去の災害を知る

過去の大雨で災害が起きた箇所は水が集まりやすい地形のため、災害が起きやすい場所です。一度災害が起きた場所でも再び、災害が起きることがあります。



❗ 過去の災害箇所は、要注意箇所。裏面の地図に記載している場所を確認してください。

土砂災害の危険を察知するポイント（大雨が予想されるとき的心得）

前兆現象に気を付ける

これまでの土砂災害では、**災害の発生前に多くの前兆現象が確認されています。**

がけ崩れの前兆	がけに割れ目が見える がけから水が湧き出る がけから小石がパラパラ落ちてくる 木の根の切れる音がある 等
土石流の前兆	急に川の水がにごり、流木が混じりだす 雨が降り続けているのに、川の水位が下がる 山鳴り・地鳴りがする 腐った土の臭いがする 等
地すべりの前兆	沢や井戸の水がにごる 家やよう壁、樹木や電柱が傾いたりする 地面やよう壁に、ひび割れができる 斜面から水が噴き出す 等

❗ 前兆現象に気が付いたら、すぐに区長さんへ連絡して避難を開始して下さい。

こんなとき、どうする？

怖いので早めに自主避難したい

1次避難所の管理者は区長さんです。
避難の前に区長さんへ連絡して下さい。

川が溢れた！裏山の斜面が崩れ始めた！

区長さんへ連絡して、すぐに安全な場所へ避難して下さい！

雨がこれまでどれだけ降ったのか、これからどれだけ降るのか調べたいのだけど...

テレビやラジオなど 気象庁のホームページはこちら

降水量 気象庁 最新の気象データ

予報 解析雨量・降水短時間予報

一人の避難や補助が必要な人との避難が不安

区長さんやご近所の方に声をかけて、一緒に避難しましょう。
早期避難が重要です。

避難路の斜面が崩れそうで逃げられない

大雨が心配なときは、事前に気象情報を調べて移動を控えたり、雨が強くなる前に避難して下さい。

多くの方が通話していて電話がつながりにくい家族と連絡が取れない

災害伝言ダイヤルをご活用ください。

ご家族で連絡方法を事前に決めておくのも大切です。

災害伝言ダイヤルの利用方法

171 伝言を録音するとき 1+ 自宅の電話番号(市外局番から)

2+ 伝言を聞きたいとき 2+ 自宅の電話番号(市外局番から)

上記の方法で対応できないときは、野迫川村総務課（☎0747-37-2101）までご連絡ください。

大雨が予想されるときに発表される情報と避難行動の考え方

雨等の状況	気象情報	村の対応※1	村民のみなさまにお願いする行動
1日程度前 大雨の可能性が高くなる	大雨や台風に関する気象情報の発表	職員の待機 道路状況のみまわり	気象情報の入手 危険箇所の確認
半日～数時間前 大雨が始まる強さが増す	大雨注意報 / 洪水注意報 村の発表基準※2 時間雨量：50mm以上	避難準備情報の発令 告知放送や広報車で注意と自主避難を呼びかけ ❗ 停電になると告知放送が使えず、連絡に時間がかかる場合があります。不安なときには、村の連絡を待たず、早めに避難を開始して下さい。 災害対策本部の設置 避難勧告・指示の発令 告知放送や広報車で避難を呼びかけ ❗ これまでの避難勧告の発令は土砂災害警戒情報の発表や、災害発生状況、川の増水状況などから判断しています。身の危険を感じたら、村の連絡を待たず、避難を開始して下さい。 ■ 2次避難の場合 村職員が避難所を開設 2次避難所は、施設の状況や安全性を考慮して状況に応じた場所を村が指定します。	区長、消防団、地区住民に伝達 一人で避難ができないなど、避難行動に時間がかかりそうな方は、早めに避難行動を開始して下さい ❗ 避難に不安がある方は、避難勧告が出る前に、まずは区長さんへご相談ください。 家族等との連絡、非常持ち出し品の用意等、避難準備を開始して下さい 非常持ち出し品 応急医薬品 救急医薬品、常備薬、包帯など 非常食品 三日分の飲料水や非常食など 情報機器類 携帯ラジオ・電話、乾電池など 日用品 洗面用具、衣類、タオル、おむつなど 照明器具 懐中電灯、ライターなど 貴重品 現金、印鑑、預金通帳など ❗ ふだんから準備して、避難時にすぐ取り出せる場所に保管して下さい。
数時間～1,2時間前	大雨警報 / 洪水警報 村の発表基準※2 時間雨量：70mm以上		大雨特別警報 警報基準を大きく超え、数十年に一度の大雨を予想 ❗ 特別警報が発表されたら、直ちに避難を開始して下さい。

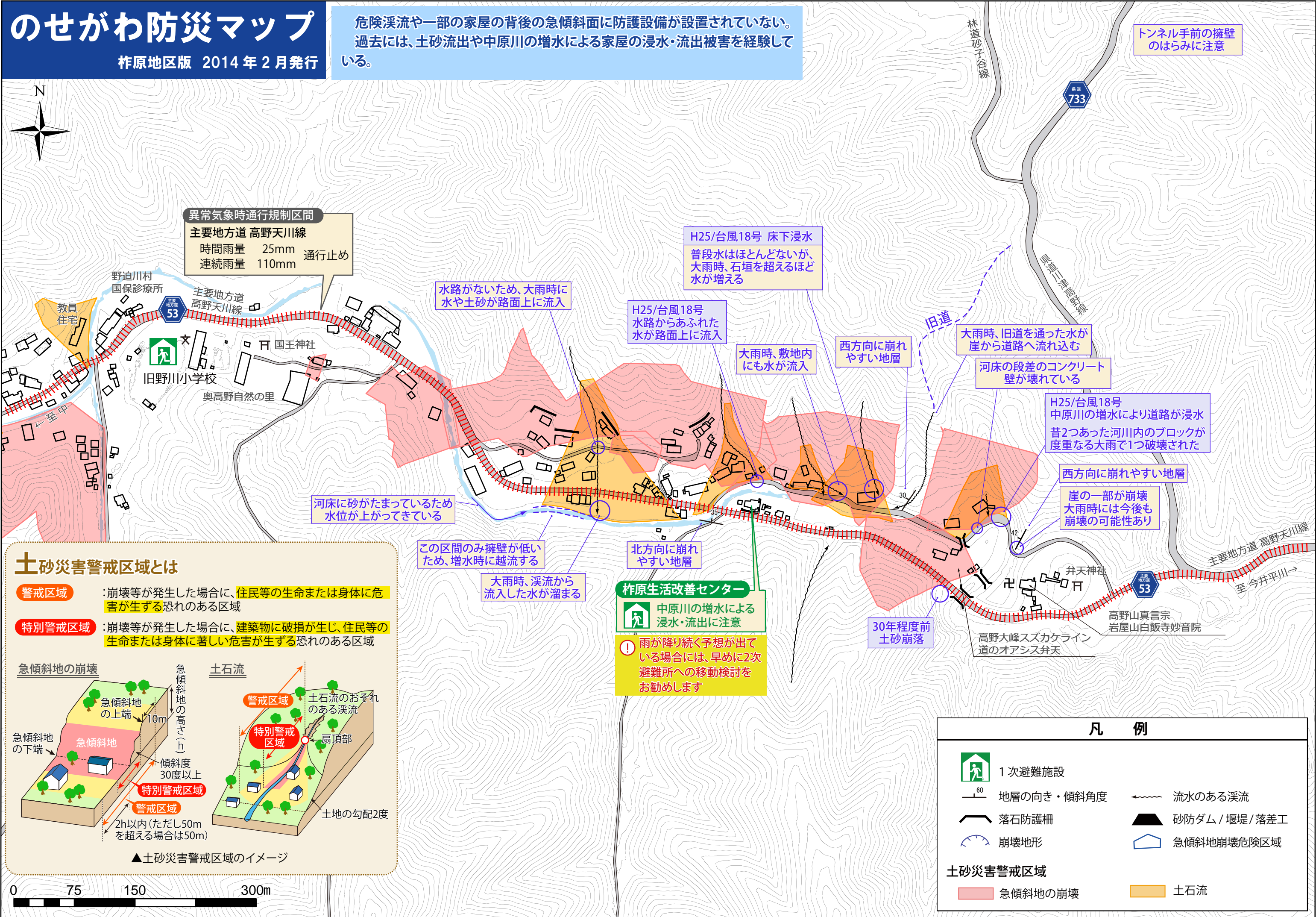
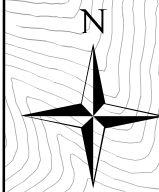
土砂災害警戒情報

※1 降雨の状況などの気象条件や被害状況から総合的に判断しています。そのため、1時間降雨量が少なくても土砂災害が起こった場合などはすぐに避難勧告等を発令したり、災害の場所によっては最初から2次避難を発令することもあります。
 ※2 注意報・警報は、記載している時間雨量のほか土壌中に貯まっている雨量の量を示す土壌雨量指数の基準値をもとに発表されます。
 ※3 平成23年台風12号は北股観測所、平成25年台風18号は国土交通省紀伊山地砂防事務所設置の北股雨量計のデータを使用。

のせがわ防災マップ

柞原地区版 2014年2月発行

危険渓流や一部の家屋の背後の急傾斜面に防護設備が設置されていない。
過去には、土砂流出や中原川の増水による家屋の浸水・流出被害を経験している。



異常気象時通行規制区間
 主要地方道 高野天川線
 時間雨量 25mm 通行止め
 連続雨量 110mm

H25/台風18号 床下浸水
 普段水はほとんどないが、大雨時、石垣を超えるほど水が増える

水路がないため、大雨時に水や土砂が路面上に流入

H25/台風18号 水路からあふれた水が路面上に流入

大雨時、敷地内にも水が流入

西方向に崩れやすい地層

大雨時、旧道を通った水が崖から道路へ流れ込む
 河床の段差のコンクリート壁が壊れている

H25/台風18号 中原川の増水により道路が浸水
 昔2つあった河川内のブロックが度重なる大雨で1つ破壊された

西方向に崩れやすい地層

崖の一部が崩壊
 大雨時には今後も崩壊の可能性あり

河床に砂がたまっているため水位が上がってきている

この区間のみ擁壁が低い
 ため、増水時に越流する

大雨時、渓流から流入した水が溜まる

北方向に崩れやすい地層

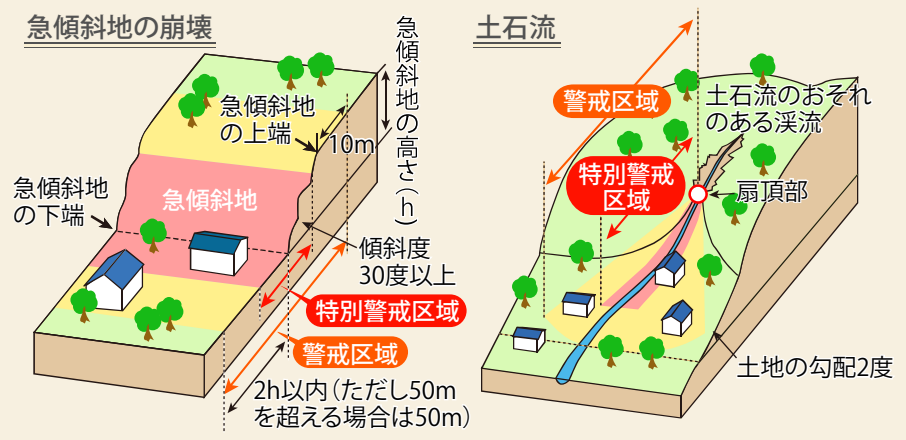
柞原生活改善センター
 中原川の増水による浸水・流出に注意

雨が降り続く予想が出ている場合には、早めに2次避難所への移動検討をお勧めします

30年程度前土砂崩落

土砂災害警戒区域とは

- 警戒区域** : 崩壊等が発生した場合に、住民等の生命または身体に危害が生ずる恐れのある区域
- 特別警戒区域** : 崩壊等が発生した場合に、建築物に破損が生じ、住民等の生命または身体に著しい危害が生ずる恐れのある区域



▲土砂災害警戒区域のイメージ



凡 例	
	1次避難施設
	地層の向き・傾斜角度
	落石防護柵
	崩壊地形
	流水のある渓流
	砂防ダム/堰堤/落差工
	急傾斜地崩壊危険区域
土砂災害警戒区域	
	急傾斜地の崩壊
	土石流